

## 1. 評価結果概要表

作成日 平成21年6月30日

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

## 【評価実施概要】

事業所番号	鹿児島県指定 第4675300158号		
法人名	社会福祉法人 希望会		
事業所名	グループホーム やすらぎの里		
所在地	鹿児島県 姶良郡 姶良町 下名 2992番地 (電話) 0995-65-1641		
評価機関名	NPO法人 自立支援センターかごしま 福祉サービス評価機構		
所在地	鹿児島市星ヶ峯4-2-6		
訪問調査日	平成21年6月26日	評価確定日	平成21年7月12日

## 【情報提供票より】(21年 6月 1日事業所記入)

## (1) 組織概要

開設年月日	平成 14 年 2 月 1 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	9 人	常勤 9人 非常勤 0人	常勤換算 8.9人

## (2) 建物概要

建物構造	鉄骨 造り 1階建ての ~1 階部分		
------	-----------------------	--	--

## (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30,000 円	その他の経費(日額)	450 円
敷 金	有( 円) ○無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有( 円)	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり 1000 円		

## (4) 利用者の概要(6月1日現在)

利用者人数	9 名	男性 1 名	女性 8 名
要介護 1	3 名	要介護 2	5 名
要介護 3	1 名	要介護 4	0 名
要介護 5	0 名	要支援 2	0 名
年齢	平均 84.7 歳	最低 77 歳	最高 94 歳

## (5) 協力医療機関

協力医療機関名	田上記念病院・川島クリニック・徳重医院・おばたデンタルクリニック		
---------	----------------------------------	--	--

同一敷地内に、法人のデイサービス・小規模多機能ホーム・介護施設等があり、地域の福祉施設として、地域住民との協力関係や信頼関係が築かれている。風呂は天然温泉で、一人ひとりのペースで入浴でき、楽しみのひとつになっている。文化祭への作品出展など入居者の得意な事やできる事を大にする支援を実施している。地域の中で共に支えあい「生きる喜びとなる暮らし」を支えるホームとして、益々の充実が期待できるホームである。

## 【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	前回評価での改善点はない。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	管理者は、職員に自己評価の意義やねらいについて説明し、用紙を配布し全職員で話し合った。項目に添って日々のケアを振り返り、サービスの質向上に活かそうと取り組んでいる。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	定期的に開催し、事業所が取り組んでいることや課題を話し合い、地域住民代表の委員の協力で、災害時の支援体制ができ、サービス向上に活かされている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	重要事項説明書に苦情・相談窓口を明記し説明している。面会時や電話で意見や要望を聞くように努めている。年一回家族会を開催したり、運営推進会議に家族の参加も呼びかけ意見や不満を表す機会を設けていく。
重点項目⑤	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	地域の生き生きサロンや小・中学校の文化祭等に作品を出展するなどしている。法人主催の夏祭りや敬老会を地域住民も合同で開催している。保育園児との交流も行っており、地域住民との交流に努めている。

## 2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
<b>1. 理念と共有</b>					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域の中で共に支えあい、大切な人生をその人らしく思いや願いをしっかりと受け止め、喜びとなる暮らしを支えるサービスとして事業所独自の理念を作り上げている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念をパンフレットや重要事項説明書に明記し、玄関やホール・事務所等に掲示し、出勤時に音読し、全職員が共有できている。理念の実践に向けて日々取り組んでいる。		
<b>2. 地域との支えあい</b>					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の行事の生き生きサロンや小・中学校の文化祭等に参加している。法人主催の夏祭りや敬老会に地域住民も合同で実施している。保育園児との交流も行っており、地域住民との交流に努めている。		
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者は、職員に自己評価の意義やねらいを説明し、用紙を配布し、全職員で話し合った。項目に添って日々のケアを振り返り、サービスの質向上に活かそうと取り組んでいる。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的に開催し、事業所が取り組んでいることや課題を話し合い、地域住民代表の委員の協力で、災害時の支援体制ができ、サービス向上に活かされている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	町担当者には、日頃から運営上の疑問点や解決すべき課題等を、随時相談しており、協力関係が構築できている。		
<b>4. 理念を実践するための体制</b>					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	入居者の様子や健康状態などは、面会時や電話等で報告している。金銭管理については面会時に確認してもらっている。ホーム便りも定期的に発行し、行事の様子など写真を掲載し報告している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	重要事項説明書に苦情・相談窓口について明記し説明している。面会時や電話で意見を聞くよう努めている。年一回家族会を開催したり、運営推進会議に家族の参加も呼びかけ、意見や要望を表す機会を設けている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	運営者は離職や異動は最低限に抑えるよう努めている。やむを得ない異動や離職の場合は経験者の採用に努め、引継ぎの期間を長く取るなど、入居者のダメージを防ぐ配慮をしている。		
<b>5. 人材の育成と支援</b>					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修は段階に応じて受けるよう勧め、法人内の研修も計画的に実施している。研修報告も職員会議で行い、研修内容を全職員が共有している。資格取得も法人全体で勉強会を開催し、積極的に進めている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県や地区的グループホーム連絡協議会に加入し、研修や事例検討・意見交換など交流している。他のホームの見学会にも参加し、活動を通じてサービスの質向上に取り組んでいる。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するため、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	本人・家族にホームに来てもらい、茶話会やレクリエーションなどをしながら、徐々に雰囲気に馴染んでもらうよう工夫している。法人内のデイサービスや小規模多機能ホーム等からの入居が多く馴染みの関係が築かれている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場における、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	昔の歌や遊びなど教えてもらうことがある。山菜取りや調理、梅・ラッキョウ・金柑の保存食づくりなど教えてもらいながら一緒に作っている。支えあう関係が自然に築かれている。		
<b>III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中で話したり、入居者同志の会話の中で思いや意向の把握に努めている。困難な方は表情や動作から、察するよう努め、本人本位に検討している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映した介護計画を作成している	本人・家族の思いや意向を聞き、職員会議で主治医や関係者からの意見を参考に話し合って、職員の気づきや意見を反映した介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	期間や本人の状態に応じて、随時モニタリングやカンファレンスを実施し、現状に即した介護計画を作成している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	医療連携体制により24時間の健康管理のほか、通院や特別な外出、美容院利用時の送迎など家族と相談して、柔軟に支援している。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人家族の希望するかかりつけ医の受診を支援している。月2回の定期的な訪問診療もある。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	医療連携体制があり、重度化や終末期の有り方についてアンケートを取り、対応方針を作成し、本人・家族に説明し同意書を交わしている。状態を見ながら、主治医や関係者・職員と話し合い、対応方針の共有を図っていく体制である。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	入居者に対する言葉かけや対応など配慮している。採用時の個人情報保護の誓約書と共に、法人全体で人権擁護委員会を設け、プライバシーの確保の徹底について話し合っている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	大まかな一日の流れは有るが、趣味の時間や入浴・散歩など、一人ひとりの思いや希望を尊重した支援を行っている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食材の買い物も入居者と同行し、調理の手伝いや味付け・配膳・片付けなどできる事はしてもらいい、職員と一緒に会話を楽しみながら食事をしている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわず、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	風呂は温泉で、体調や希望を考慮し、時間や湯の温度など本人の希望で入浴を楽しめるよう支援している。		
<b>(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	得意とする調理や洗濯物干しや整理、野菜や花の手入れなど役割を持ってもらっている。絵を書いたり、カラオケ、体操、レクリエーションなど楽しみや気晴らしを支援している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのそこの日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気や体調・希望を聞いて、散歩や買い物・ドライブなどに出かけている。敷地内のデイサービスや介護施設の行事・地域の行事などに参加している。		
<b>(4)安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	入居者一人ひとりの外出傾向を把握し、身守りを徹底し、昼間は鍵をかけないケアを実践している。ドアに鈴をつけ、開閉に気づくよう工夫している。敷地内の他の事業所と協力体制がある。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	定期的に消防署の協力を得て、避難訓練や消火訓練を実施している。地域住民による自主防災組織をつくり支援体制がある。風水害対策について講習を受け火災以外の災害についても備えている。水や食糧など準備している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事、水分摂取量を記録している。献立の栄養バランスについて施設の管理栄養士にアドバイスを貰っている。入居者の状態や体調に合わせ、刻み食など支援している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を探り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	オープンキッチンなので台所の様子が良く見え、テーブルや椅子が使いやすく配置されている。畳コーナーや保存食の瓶等がならんでおり、生活感があり家庭的な雰囲気で、居心地良く過ごせるよう工夫している。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ベッドやタンスはホームが用意し、洗面台も設置されている。使い慣れた机や椅子・時計・ラジオなどを活かし、家族の写真やカレンダー・花等が飾られ、利用者が安心して過ごせるよう工夫している。		

※  は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。